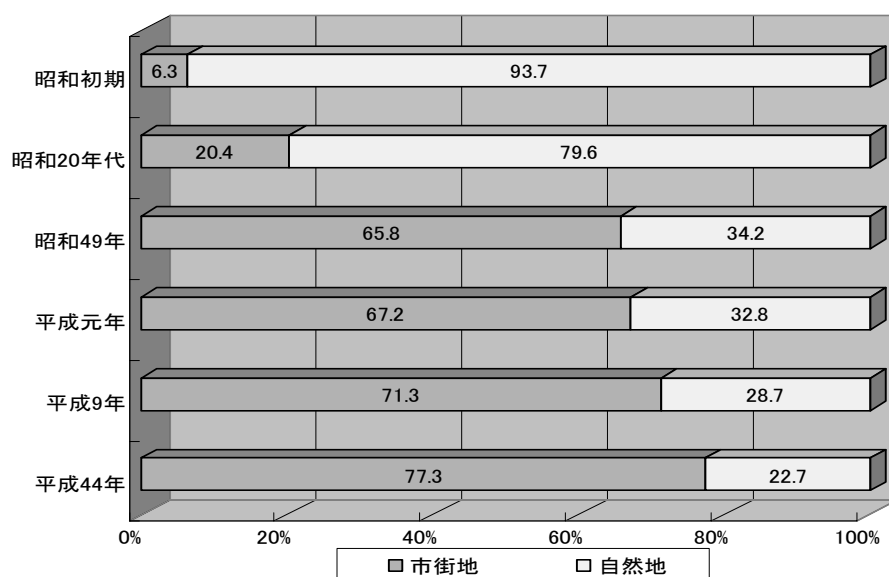


1.2.3 野川流域の土地利用の変遷

土地利用の推移を見ると、昭和40年代後半までの高度経済成長とともに急速に市街化が進んだことがわかる。平成9年の市街地率は約71%となっている。(図-1.2.5)

一方、野川に沿った国分寺崖線には断続的に樹林地が残されており、自然地の割合も小さい。樹林地の一部は東京都の緑地保全地区、各区市の保存樹林や保全地域等に指定されている。また、付近には規模の大きな都市計画公園、研究施設、文教施設があり、比較的広い緑地が残っている。



資料：昭和初期及び昭和20年代：「野川流域の総合的な治水対策暫定計画」東京都区部中小河川流域総合治水対策協議会 H4

昭和49年及び平成元年：「細密数値情報(10mメッシュ土地利用)」国土地理院より作成

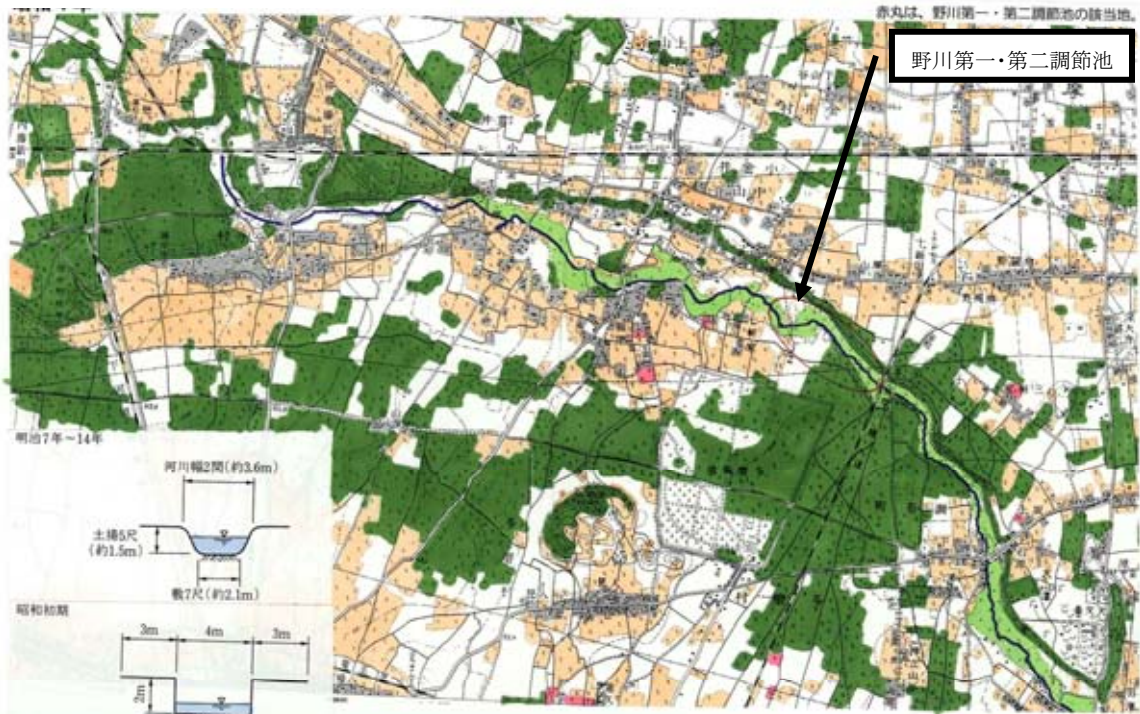
平成9年：「東京都都市計画地理情報システム」より作成

平成44年：昭和49年～平成9年の市街化率の推移に基づきトレンドで推定

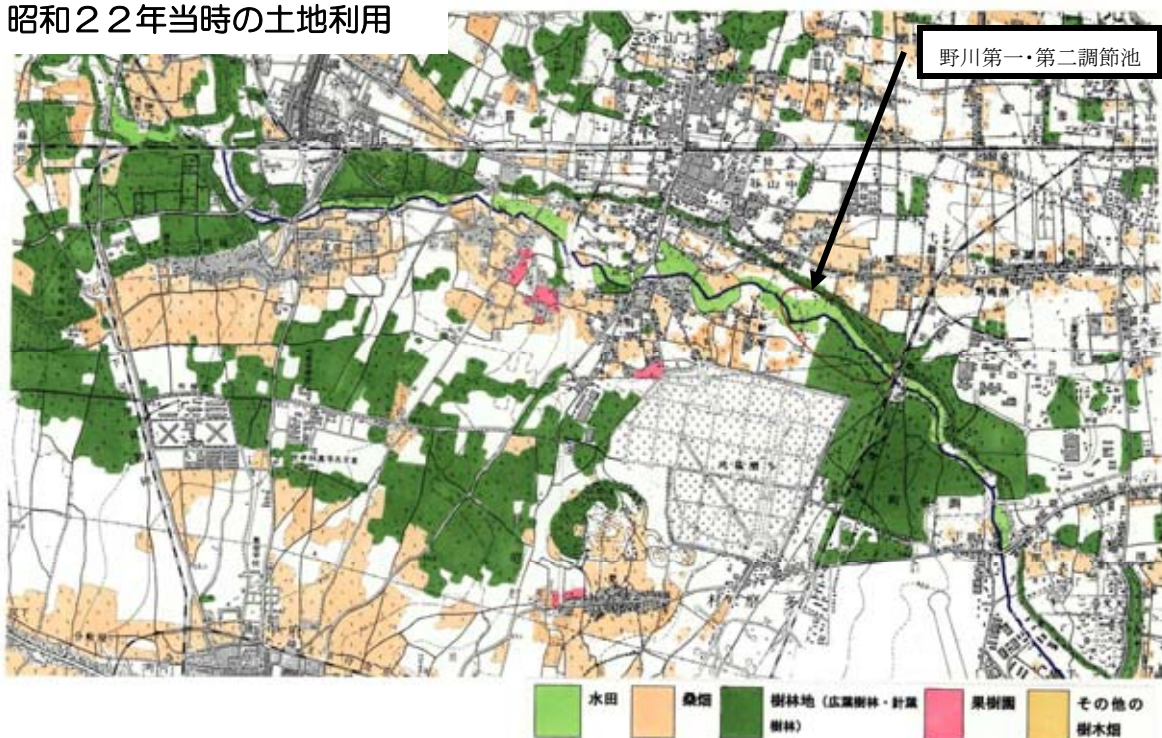
図-1.2.5 野川流域の土地利用と市街化率の変遷

事業対象地区を中心とした地域の土地利用について、旧版地形図を活用して着色した図を次ページ以降に示す。図に示すように、小金井周辺は主に桑畑としての利用が主であった。そのような地域の中であって、野川の両岸の一部区域のみが水田を耕作していたこと、また、そのための水をほとんど外部地域(玉川上水)から供給されていたことなどが野川沿川の土地利用の特徴である。

昭和4年当時の土地利用

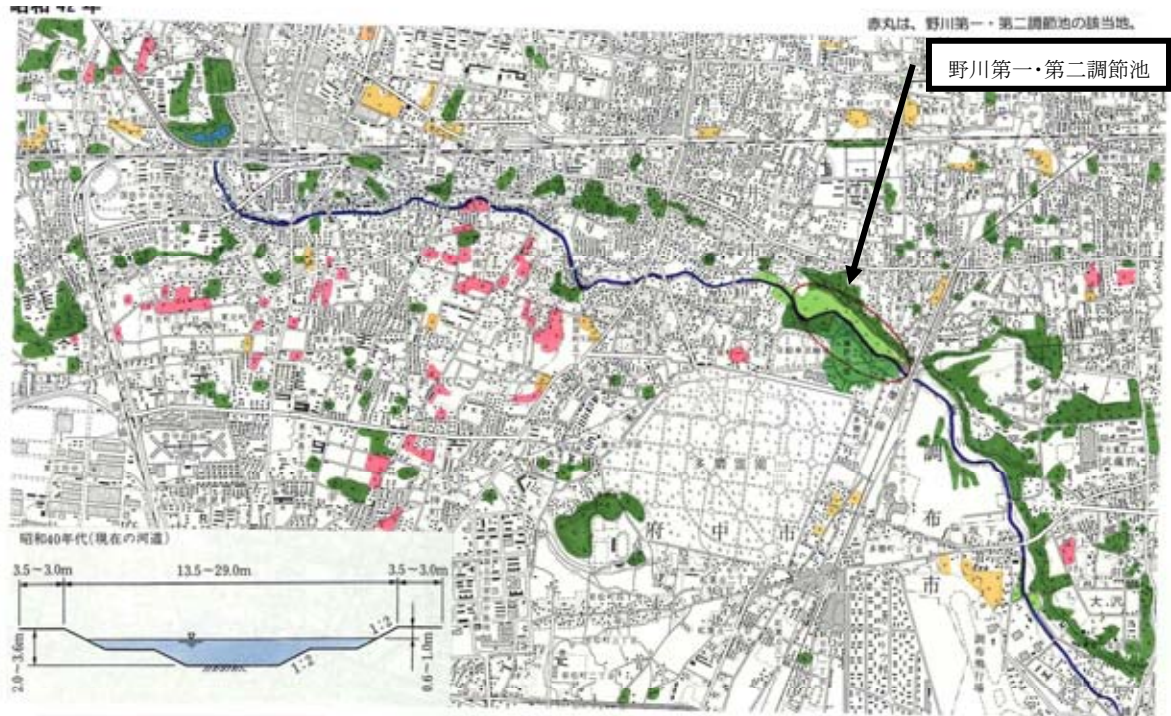


昭和22年当時の土地利用



資料：旧版地形図に着色。河川断面図は、土屋十園「都市河川の総合親水計画」
図-1.2.6 野川流域の土地利用の変遷（その1）

昭和 42 年当時の土地利用



平成 7 年の土地利用

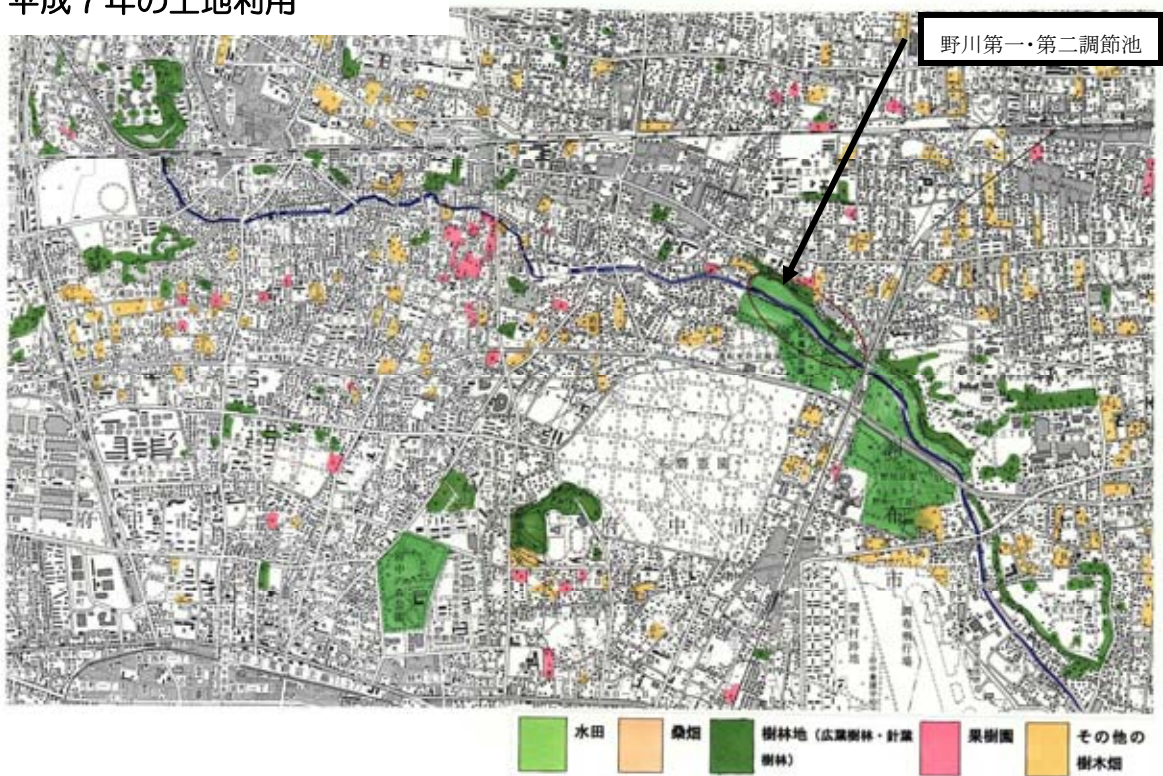


図-1.2.6 野川流域の土地利用の変遷 (その2)